


研究者総覧：佐藤 弘毅 (SATO, Kouki)

氏名	佐藤 弘毅 (SATO, Kouki)	
職名	講師	
所属講座	日本語文化専攻日本語教育方法論講座	
学位（専攻分野）	博士（工学）・東京工業大学	
メールアドレス	sato@ecis.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/about/staff/sato.html	
研究分野	教育工学	
	日本語教育	
	教育メディア	
現在の研究テーマ	ICT を活用した日本語教育支援	
所属学会	日本教育工学会	
	日本語教育学会	
	Association for the Advancement of Computing in Education	
主要著書・論文	「電子黒板・デジタル教材活用の留意点」『電子黒板・デジタル教材活用事例集』（赤堀侃司編, pp.22-25, 教育開発研究所, 2011年）.	
	「初級漢字授業における電子黒板の活用」『名古屋大学日本語・日本文化論集』（17巻, pp.87-106, 2010年）.	
	「黒板の利点に着目した電子化黒板の特徴分析と支援システムの提案 -日本語教育での効果的な活用を目指して-」『名古屋大学日本語・日本文化論集』（15巻, pp.79-100, 2008年）.	
	『現代日本語コース中級聴解 (IJLC) CD-ROM』（名古屋大学日本語教育メディア・システム開発グループ（編）, 石崎俊子・原愛樹・江川智昭と共著）凡人社（2006年）.	
	「電子化黒板に共有された情報への視線集中が受講者の存在感および学習の情意面に与える影響」『日本教育工学会論文誌』（赤堀侃司と共著, 29巻4号, pp.501-513, 2005年）.	
自己紹介文	<p>私の専門分野は教育工学です。目的は教育、方法は工学とよく例えられます。教育を効率的・効果的に行うため、現実の問題を解決するための道具（教育メディア）に関する研究が多いですが、近年では特に ICT（情報コミュニケーション技術）を用いた研究が目立ちます。私はこの ICT を用いて、日本語教育をはじめとする授業および学習を効果的に支援するための基礎研究を行っています。具体的には、電子黒板を活用した授業支援、日本語教育用コンピュータ教材（CALL）の開発、コンピュータを介したコミュニ</p>	

ケーション (CMC) 研究などに取り組んでいます。またそのすべてにおいて、存在感 (social presence) の役割に関する分析を行っています。

教育工学研究は「まさかり」に例えられます。他分野の知見や手法を大胆に借りてきて、教育のこと、強いては人間の幸せのために何ができるかを考えます。現代社会は科学も技術も日々目まぐるしく変化しています。常識にとらわれない大胆な発想で、日本語教育に何ができるか、人間の幸せのために何ができるかを考えていきたいと思っています。

趣味ですが、人間の幸せのためには健康が基本！ということで、健康に気を使った食事や散歩などを心がけています。音楽が好きで、密かにキーボードを弾いたりしています。また、CMC を研究する傍ら、最近のネットコミュニティにも興味を持っています。

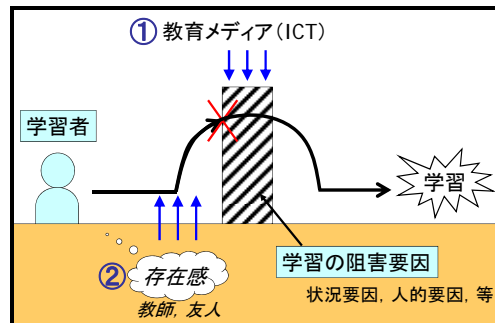


『電子黒板・デジタル教材活用事例集』— I 部の「4. 電子黒板・デジタル教材活用の留意点」を分担執筆しています。

受験生へのメッセージ

まず内容面ですが、日本語教育における教育メディアの役割について大胆な発想で研究・勉強したい人をお待ちしています。これには大きく分けて2つのアプローチがあると思います。1つ目はICTをはじめとする道具を使うことで、直接学習の阻害要因となっているものを低減させる方法です。例えば、活用場面がイメージしにくく難しい事項は、動画やアニメーションを使うと簡単にわかりやすく説明で

きる可能性があります。このような道具を開発し、効果検証を行う研究が考えられます。2つ目は学習者の可能性に訴えかける方法です。例えば、前述した動画やアニメーションには、学習



教育メディアの効果—①が直接学習の阻害要因を下げるもの、②が学習者の可能性を押し上げるものです。

者の興味を引き学習に対する動機付けを高める効果もあります。また私は教師や同級生のサポート、存在感の効果にも着目しています。道具がもたらすこのような効果を明らかにする研究が考えられます。

次に精神面ですが、研究は24時間至る所でその内容について思いを巡らすことが大切です。これは私自身に対する戒めでもありますが、1日考えなければ1週間、1週間考えなければ1ヶ月、1ヶ月考えなければ1年、1年考えなければ一生研究が進むことはありません。またそのためには、とにかく自分が好きな研究をすること、自分が一番興味があるテーマを見つけることが肝要だと思います。もちろん自分の興味を貫き通すことは色々と研究上の困難が生じますが、最初に抱いた思いを大切にしてもらいたいと思います。